

最新EHRセミナー

(ビックデータ時代のEHRと医療情報標準化の動向)

日時：2013年7月8日 14:00～17:00 (13:00開場)

場所：京都大学東京オフィス(東京都港区港南2-15-1 品川インターシティ A棟 27階)

主催：アーキタイプ研究会

共催：京都大学EHR共同研究講座

担当：アーキタイプ研究会 小林 慎治(愛媛大学)

会費：一般参加者 15,000円

(医療機関・公共機関、あるいは学術機関所属の方は5,000円)

アクセスマップ：<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office/about/access.htm>

申込み方法：別紙に記入の上、6月中に下記の問い合わせ先までご連絡ください。

当日の参加申し込みも受け付けますが、定員(約100名)となり次第締め切らせていただきます。

問い合わせ・申し込み先：アーキタイプ研究会「最新EHRセミナー事務局」

受付e-mail：ehrseminar@openehr.jp

後援者：「株式会社安土」「ラジエンスウエア株式会社」「一般社団法人 MUCS監査機構」



【演題1】日本におけるEHRの実装状況について
吉原博幸 京都大学EHR共同研究講座



【演題2】北米のEHR事情について
John Halamka, Harvard University
Web講演



【演題3】国家的EHRに向けてのNew Zealandでの取り組みについて
Koray Atalag, MD, PhD, FACHI, Senior Research Fellow,
School of Population Health, The University of Auckland



【演題4】ブラジルの国家EHR(RES-SUS)について
Jussara Röttsch, MD MS, Director, openEHR foundation,
lead coordinator of governance of archetypes, Brazilian
Association of Health informatics

* 2,3,4は英語での発表ですが逐次通訳がはいります。

日本では医療情報システムが普及し、レセプトオンライン化もほぼ達成され、標準規格に基づいた地域での診療情報共有が各地で拡大しつつあります。一方で欧州を中心に国家レベルで国民の健康に関するすべての情報を一生涯にわたって記録していくEHR(Electronic Health Record)の実現に向けての取り組みも始まっています。国家的EHRでは、蓄積されたデータを元に医療の質を評価したり、疫学調査に役立てていくことが明確に目標とされています。つまり、医療におけるビックデータ活用こそが、EHR構築の究極の目標であるといえます。本セミナーでは、米国におけるEHR構築の中心人物であるハーバード大学John Halamka先生をはじめ、ブラジル、ニュージーランドから講師をお招きして下記のように最新のEHR事情とその背景にある医療情報標準化、診療情報モデルの作成といった話題を提供していただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

愛媛大学 小林 慎治